

さくら第511号

令和 4年 7月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
 発行者 平瀬重雄  
 春江町境 17-7:Tel51-1337  
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



## 『数感覚を養う』

そろばん学習で身につく大きな力のひとつに暗算力があります。そろばんの玉を動かすことで脳にイメージをあたえるトレーニングを続けることにより、やがて、実際にそろばんの玉を動かさなくても計算ができるようになります。

1桁のたし算やひき算、2桁、3桁と桁数がアップすると加減算でそろばんを使わなくても暗算で計算できるようになっていきます。

かけ算やわり算も暗算で計算できるようにトレーニングを続け、暗算検定試験で1級合格を目指すようになると自信がつかます。

そろばん日本一を決める大会が7月24日に神戸市、8月8日には京都市で開催され、日本一の選手は5桁～16桁の読み上げ暗算ができます。練習では5桁から20桁まで正答率といい、人間の能力の凄さを感じます。

塾で練習する時の目安は2桁10個の見取暗算。2桁×2桁。4桁÷2桁の計算が暗算で計算できるようにと練習を重ねています。

これくらいの暗算ができればふだんの生活で役立ちます。暗算が苦手と言う人もあきらめずトレーニングを続けましょう。また、特に暗算力は低学年から練習するほうが身につきます。

そろばんの計算では1の位まで、なかには小数第3位まで計算しますが、概数計算では大まかな位を決める問題もあります。

江戸時代のそろばん指導書「塵劫記・じんこうき」では概数についての問題もあります。

小学4年の算数の教科書ではこの概数計算が出されます。学校ボランティア授業では小

学3年と4年の副読本「たのしいそろばん」で概数計算をします。

「数感覚」という言葉があります。情報誌「AERA」に以下のことが掲載されていました。

「計算が苦手な子にありがちな4つの行動パターンと数感覚を身につけるための2つのポイント」というタイトルです。

1つ目は、簡単な計算でも筆算をしている

$35+65=100$ 、 $25\times 4=100$ など暗算したほうが速く解けそうな問題まで筆算し、桁をまちがえたり数字を見まちがえて計算する。

2つ目は、とにかく計算が遅い

計算は正しく速くである。計算が遅いと文章題などを解くとき、早く式を立てて計算せねばとあせり、じっくり問題と向かい合うことができず正解が得られない。

3つ目は式は合っているのに計算ミスが多い

計算が苦手だと式を立てるのに時間がかかってしまい、計算であせって間違えるケースが多い。

4つ目は計算が間違っているにも気づかない

「 $29\times 15=3024$ 」のように、明らかに間違った答えを書いてしまう子が多い。筆算の桁の書き間違いですが、この計算結果はおかしと気づかないことが問題である。

計算力があるかないかは、「数感覚」が身についているかどうかで、たとえば次の質問で考えてみよう。

親子3人で食事に行き会計が2,778円になりました。一人あたりいくらでしたか。

すぐに「 $2778\div 3=926$ 」と正確な答えが出せなくても、「だいたい3,000円だから一人あたり1,000円くらい」と考えることができればOK。「だいたいどのくらい」という「数感覚」が算数ではとても大事といえます。

「 $33\times 55=16665$ 」と書いても何らおかしと思わないのが困ります。筆算で桁をずらして書いたのがミスの原因ですが、数感覚があれば $40\times 60=2400$ なのだからこんな大きな数字になるはずがないと答えが出た瞬間に気づくはず（次号に続く）